

岡山県立勝間田高等学校第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和2年11月24日(火) 13:00~15:30

場所 岡山県立勝間田高等学校記念館3階会議室

(委員15名のうち、15名が出席)

1 開会行事

校長挨拶

会長挨拶(水嶋勝央町長)

事務局より本日の日程と配布資料の確認

2 授業参観・施設見学(13:10~13:40)

3 報告

第1回欠席の委員の自己紹介の後、校長による報告を行った。

(委員自己紹介) 地域型解決を事業にしている組織をいくつか行っている。地域の活性化や、最近ではコロナで仕事を失って困窮者が増えている。支援など色々な事業をさせていただいている。買い物もできない田舎で暮らしている方にも地域モデルを作ろうという事業も展開している。またSDGsをテーマに地域の活性化を考えようと久米南町と組んで町内、県内の中小企業中堅社員を入れて6ヶ月間、市の職員と一緒に考える会を開いている。学校に関係することでは高校と地域をつなげる役割をしようと和気閑谷高校が代表的なことをしているが、県内、和気、笠岡、新見20人くらいまとまって提言書を作って県教育長に提言書を提出した。勝間田高校の林業緑地科の卒業生で少しでも恩返しが出来たらと思う。

(1) 学校経営に関する事項(報告 校長)

今年度学校経営計画書について副校長から具体的なことは第1回を経て学校の特色等について報告する。学校運営協議会において承認を得て1年間をスタートし、この経営目標に則りどのような成果や結果であったかを最終的には評価・検証し、どのように次年度に活かしていくかという視点で見てもらいたい。

(2) 組織編成に関する事項(報告 校長)

清風祭文化の部でのアンブレラスカイでは、生徒会の生徒がこんなことがしたいと思った時に、本校では自動車系列で、溶接専門の施設があり専門性をもった教職員がいるからこそできた技である。学校は教職員がバラバラになれば学校の統一感がなく、生徒を伸ばしてやれない。自分たちの専門を学校全体のために活かそうとする志のある教員がこの学校にはいるので本当に心強く思う、という教職員の言葉が心に一番残ったコメントであった。来年から120人定員になり定員が20名減少する。令和元年度に総合学科体制になることによって定員減があったので、生徒数はこの2年間で30名の減少となる。専門性を活かすと言っても学びのコースが厳選されているのが本校の現状である。定員減になることで、より本校の特徴を活かすことができる専門の学び(コース)に厳選した組織編成とする必要がある現状である。

(3) 予算執行に関する事項(報告 事務長)

前回、学校経営予算木のぬくもり実感事業、森の担い手事業について説明した。その他に通常の高校としての管理運営費がある。本校は農業高校のため、生産品などを製造する自主経費があり、新型コロナウイルス関連の県からの指示で執行保留がかかった。その代わり保健衛生費と学

校再開事業ということで予算令達があったが、かなりの予算を削られた状態である。中学校との交流が1件中止、外部講師を呼んでの講演会、講習会等中止になった。2学期順次実施しているも、3学期実施するものもあるが、多くの事業が中止となっている。

(4) その他関連する事項（報告 副校長）

写真による活動報告を行う。①ファーマーズの植栽実習（風景）、②役場前花壇植栽、③岡山空港を花壇で飾る、④勝央中学校との交流9月30日に中学3年生対象の進路説明会。勝間田小学校との連携でいくと10月26日も学習交流 さつまいも掘りを高校生が指導しながら小学生が芋掘り体験。今週、森林交流学习で津山市加茂にある演習林で交流学习を予定している。

校内行事の報告

① 清風祭体育の部

例年だと6月に実施していたがコロナで9月に延期したが終息まならず非公開で午前中のみ開催。

② 清風祭文化の部

今年は野菜、花、加工食品の販売はできない。人をよぶことはできない。飲食についてはマスクを取るののでできないので、模擬店もなかった。本校の伝統とよばれる核の部分をすべてできないという状態の中で、生徒会の生徒が記憶に残るものを一生に一回の高校生活でということと考えた一つがアンブレラスカイである。

③ 修学旅行について、10月にやる予定だったが今のところ来年に延期。劇的な変化があれば別だが、準備の期間を含めるとかなり厳しい状況であると言わざるを得ない。

④ オープンスクールについて、例年8月に実施が今年は延期し10月に開催した。多くの中学生が来てくれた。

⑤ 農産物販売については、人を呼ぶことができにくいので、ドライブスルー形式で行った。

⑥ その他、創立120周年記念式典を令和3年10月22日に実施する。

⑦ アグリ魅力化プロジェクトについて、これは今年度、福武教育財団の支援をいただいて活動を行っているものである。狙いは本校生徒で農業に就いているのは農業高校だがわずか2割くらい。もっと前の段階で小学校、中学校段階で農業って面白そうだな、すごいぞ、と思わせるような何か仕掛けをしないと高校ではもう遅いのではないかということでこの出来上がったPVは小中向けとらえている。取材から編集まで全部生徒でやっている。持って来た素材を生徒自ら編集している。12月18日に完成披露を行う。

その他、美作大学と連携や、総合的な探究の時間・産業社会と人間について検討報告を行った。

質疑1 生徒数減少が課題だが、県外から受検生の受け入れはないか。

（回答）全国募集については実施していない。生徒を受け入れる場所・寮があるわけではないことが一番の課題である。県外より県南に住んでいて下宿して勝間田高校に通う、県内で森林を学べるのは勝間田高校しかないので美作エリアだけではなく、もっと県内の中学生に魅力を発信することが必要と考えている。

質問2 社会人講師活用事業についてどういった講師が来て、どのような授業をしているのか。

（回答）各系列で計画して系列の学びに関係した内容を現場の経験を踏まえて実施している。

委員からの提案

和気閑谷高校は県外講師に来てもらい探究型の授業を行っている。今、課題解決力がある人材が必要だ。何か課題を見つけて調べて探究していき結果を出すことをさせようとされている。各コースの特色の中で、出来たら非常によいのではと思う。ぜひ林業がなくならないようにしてもらいたいところがあ

るので、メーカー、企業と提携することで生徒の進路の視野も広がるデュアルシステム、学校の学びの一部で仕事をしに行くという実験をされている高校もある。勝間田高校はデュアルがあった方が良いのではないかと。たくさん受け入れの会社があるので、企業選択が決まっている生徒は1年生の頃から何週間かずつ働いてみるとより就職率が高まり、そういった就職に直結するのでは。なかなか難しいところもあるが検討してもらいたい。

4 協議および情報交換

●これから学校がどのように動いていくかなと思う。勝間田高校の協議の内容はシンプルに言えば、目的を持って勝間田高校に来たいと思っている生徒を、少子化で子供たちが減っていく中、学校が生徒募集をかけて情報を発信しているなか勝間田高校を志望している子たちに集まってもらうことが一番の課題だと感じている。

●子供の数が減ってきているが、もう少し違った角度、方法で勝間田高校ができることがあるのではないかと。そのことを追求していけば、生徒から集まってくるであろう。勝間田高校の存続にはっきり方向性を出せばすばらしいこの地域を支える学校になれるのではないかと。

●何かやろうとすると、新しいことに目が行きがちになる。それも大切だが、過去のやってきた人たちを受け継いで、それをさらに自分たちの代でもっと活性化していく。それが地域であったり、勝中央町を活性化することに繋がるのではないかと。新しいことも取り入れる必要があるが、今やっていることで活躍している人の存在を子供たちに紹介することも大切ではないか。

5 閉会行事

事務局から 第3回学校運営協議会を2月下旬で調整